

## 英国の日本語教育事情 —ニューカッスル大学の事例—

前田 和則 (崇城大学)

### 1. はじめに

ここ数年の英国の高等教育における日本語教育は一時期衰退していました。国際交流基金が2017年度に公開している「日本語教育 国・地域別情報」には英国の高等教育における日本語講座の現状として「財源の確保が各大学に任されている中で、東アジア学部や日本学関連学位コースが大学のリストラの標的とされ、閉鎖に追い込まれる例が2000年代前半に見られた」とあります<sup>(1)</sup>。今回、調査で訪れたニューカッスル大学 (Newcastle University) の発祥でもあるダラム大学 (University of Durham) でも2007年に東アジア学部 (日本、中国、韓国) が閉鎖されたとの記載もあります (但し、その後2014年に別の学部の一部として復活しています)。

さて、ニューカッスルと聞いて日本との関係をすぐに思い出した方は歴史が得意な方、またはサッカーが好きな方ではないでしょうか。個人的には日本人にとってあまり馴染みのない地名ではないかと思えます。恥ずかしながら私自身、ニューカッスルを訪れるまでは地名を聞いたこともなく、英国のどこにあるのか知りませんでした。

そんな日本から遠く離れた場所でも日本語教育が行われています。今回のニューカッスル大学での調査では2点について調査を行いました。

1点目は正課外 (授業外) における活動です。これまで日本語学習者が正課外で日本語を使用する場について研究を行って来た筆者は、ニューカッスル大学での日本語教育に関する正課外活動の現況を調査することにしました。2点目は日本企業での就職を目指す日本語学習者に対する日本語教師の役割についてです。現在、筆者は大学で外国人留学生の進路支援を担当しています。日本独特の就職活動文化 (在学中から就職活動が一斉に開始されたり、新卒採用中心で採用活動が行われていること等) に関する講座を

開講したり、履歴書やエントリーシート、大学院進学希望者の研究計画書の添削等を行っています。

### 2. ニューカッスルについて

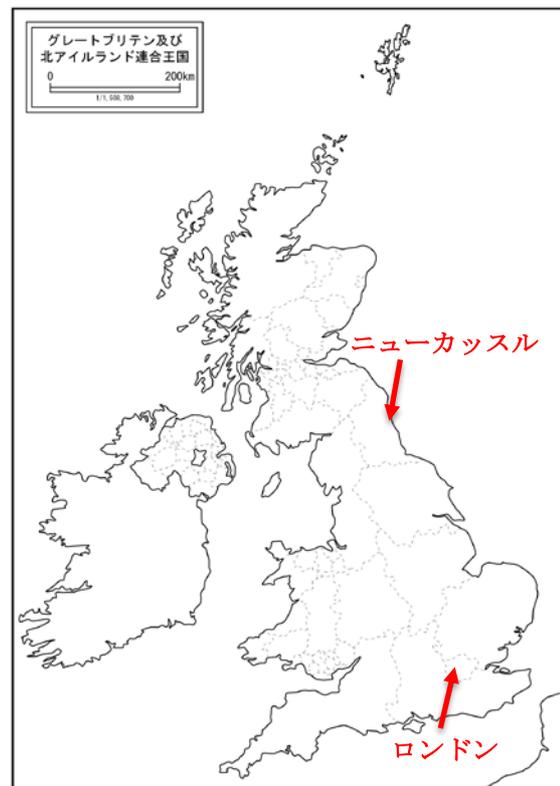


図1 英国の地図

(出典: 白地図専門店, 赤字は筆者追記)

ニューカッスルの正式名称はニューカッスルアポン タイン (Newcastle upon Tyne) と言います。タインとは、川の名前でタイン川の上 (北部) にある街がニューカッスルです。ロンドンのヒースロー空港からニューカッスル空港まで空路で約1時間、鉄道ではロンドンから約3時間のところに位置しています。イングランド北部の最大都市であり、人口は314,366人 (2019年時点<sup>(2)</sup>) です。



図2 タイン川に架かるタインブリッジ（手前）と  
ミレニアムブリッジ（奥）（2015年1月筆者撮影）

先に、ニューカッスルを知っている方は歴史が得意な方だろうと表現しました。それは、日本とニューカッスルの間には約150年前から交流があるからです。1862年に江戸幕府がニューカッスルの石炭鉱業を視察したことから始まり、1872年には岩倉使節団もニューカッスルを訪れています（コンティヘルム，1990）。目的はニューカッスルにあったアームストロング社の視察でした。1905年の日本海海戦で使用された日本海軍の軍艦はニューカッスルで製造されたものでした。また、サッカーについては、ニューカッスルを拠点としているニューカッスルユナイテッドがあるためです。サッカー日本代表の武藤嘉紀選手が在籍していることでも知られています。

### 3. 日本語教師としての原点



図3 ニューカッスル大学（2015年1月筆者撮影）

筆者とニューカッスルの接点は、日本語教師を目指そうと思ったのがニューカッスルにある、ニューカッスル大学だったところにあります。

ニューカッスル大学は元々ダラム大学（英国で3番目に古い大学）から独立した大学です。英国の主要24大学で構成されているRussell Group（ラッセルグループ）に属し（Russell Group, 2020），The QS World University Rankings 2020で世界145位（Quacquarelli Symonds, 2020）に位置する大学です。

今からちょうど20年前、2000年に在籍していた大学主催の短期語学研修でニューカッスル大学を訪れたことが、後々私が日本語教師を目指すきっかけになりました。実は、ニューカッスル大学の短期語学研修には、前年に初めて参加しており、この2000年の訪問は、私にとって2回目でした。2回目の参加に繋がった理由は、1回目（1999年）に参加した短期語学研修の際、ニューカッスル大学の教職員（英語教師、学生支援の職員）、スタッフ（チューターの学生）やホストファミリーのおもてなしに感動したことです。

翌年、2回目の短期語学研修に参加し、担任のAndrew Hutching先生（以下、アンディー先生）に将来の仕事について相談しました。アンディー先生から「日本に来ている外国人留学生のために働いてみてはどうか？」とアドバイスをもらいました。最初はどのような意味かわかりませんでした。その後にアンディー先生から「Japanese teacher」という言葉が出ました。当時、ニューカッスル大学では日本語教育が行われており、協定を結んでいる日本の大学へ交換留学生として渡日する学生もいました。アンディー先生からは「君が私たちの対応に感動してくれたように、君も日本へ来る外国人留学生に感動を与えられるようになったらどうか？」と言われました。この言葉をきっかけに帰国後、どうやったら日本語教師になれるか調べました。幸い、在籍していた大学で日本語教育課程が副専攻で履修できることがわかり、早速履修を開始し、卒業後、国内の日本語学校で日本語教師として働き始めました。それと同時に大学院で

は日本人学生との協働をベースとした日本語授業の研究と正課外における日本語使用機会の増加に関する研究を行いました。

ちなみに、今回のニューカッスル訪問は私にとって5回目の訪問でした。1, 2回目は先述の通り大学生の時に短期語学研修で訪れ、3, 4回目は仕事で訪れました。現在の勤務先の学生の海外留学先としてニューカッスル大学に受け入れを打診するために訪問したのが3回目（2015年1月）で、4回目（2015年8月）は実際に日本人学生を引率し訪問しました。

#### 4. ニューカッスル大学での日本語教育



図4 ニューカッスル大学構内  
(2020年2月筆者撮影)

ニューカッスル大学での日本語教育を調査するにあたり、ニューカッスル大学で日本語を教えられているケーシー久美先生にご協力をお願いしました。2020年2月22日～26日まで渡英し、6科目（スピーキング、文法、ビジネス日本語、読解）、レベルA～Dの4段階の授業見学を行いました。また、University Wide Language Programme（学内広域語学プログラム）を利用し、さまざまな学年および専攻の学生や、教職員が受講する授業も見学することができました。

その他、日本語教師の先生方（4名）との情報交換や恩師であるアンディー先生と昨今の外国人留学生受入に関する情報交換を行いました。ケーシー先生のご紹介で日本語学習者が参加している正課外の活動も見学でき、日本語学習者へインタビューをすることもできました。

#### 4-1 正課外における活動

先に挙げた調査目的の1つの正課外について、ニューカッスル大学にはAnglo-Japan Society（英日交流会）というサークルがあり、週に1回、大学近隣（近隣というより大学構内と言っても良いくらいの近さ）のパブで交流会を開催しています。活動内容は日本語でおしゃべりをするのが目的で、ニューカッスル大学に交換留学または語学研修で訪れている日本人学生と日本語を学習している在学生在が交流しています。私が調査で訪れた日がたまたま活動日だったため、参加させてもらいました。約20名が参加し、その内日本人は6名でした。参加している日本語学習者に話を聞いたところ「同世代の日本人と会話できる唯一の場所のため積極的に参加している」や「勉強した日本語を実際に使う場所になっている」との感想を聞くことができました。

これまで私は出身大学ならびに勤務先大学において、外国人留学生と日本人学生が交流を行う団体の設立をしました。いずれも外国人留学生と日本人学生が接する場を提供し、外国人留学生の日本語会話力向上を目指し、外国人留学生と日本人学生の交流を活発化させることにより外国人留学生を孤立させないことを活動の目的にしていました。日本語会話力向上の点に於いては私が行っていた活動と同じような取り組みがニューカッスル大学でも行われ、日本語学習者が積極的に活用していることを聞き、正課外に於いて日本語を使う場があることの重要性を改めて感じました。

#### 4-2 就職支援における日本語教師の役割

次に就職支援に関する日本語教師の役割についてです。今回の調査では日本語学習者数名にインタビューを行うことができました。その内

の1名が日本での就職を希望している学生でした。日本への留学経験もあり、日本独特の新卒一括採用や在学中から就職活動を行う必要があることについては既に知っていました。しかしながら、就職活動のために日本へ行くことが容易ではなく、今後の就職活動について不安を抱えていました。ニューカッスル大学では日系企業に就職を希望している学生に対し、ビジネス場面で用いる日本語を学ぶ授業の開講、履歴書やエントリーシートの添削等、手厚いサポートを提供されています。しかしながら、日本の就職活動は開始時期が定められていますが、毎年微妙に時期が前後する等、その時の情勢により異なるのが現状です。例えば、2019年度は4月末～5月初めに10日間の大型連休があり、大手企業を中心に採用試験の時期が前倒しになりました。また、2020年度は当初、東京オリンピックが開催される予定だったため、東京に本社のある企業は7月～9月に本社での採用試験実施が困難なことから前倒しをすると予想されていました。更に、昨今の人手不足に伴い、地方にある一部の企業でも早期に採用試験を行う傾向があります。これらの情報を海外にいる日本語学習者や日本語教師がキャッチすることは困難であるため、日本国内から海外にいる日本語教師に対し、情報発信が必要であると感じました。

## 5. ニューカッスル大学の外国人留学生受入について

恩師、アンディー先生との外国人留学生受入に関する情報交換ではニューカッスル大学の外国人留学生受入の状況が20年前と様変わりしていることがわかりました。私が短期語学研修で訪れた時は大学の国際交流部署が主導し、外国人留学生受入を行っていました。ニューカッスル大学は2012年に大学内にINTO Newcastle Universityを設立しました。INTOは英国発祥の語学学校です。英国国内に10拠点あり、大学と協力関係を締結し、大学のキャンパス内に外国人留学生が学ぶ場を作っています。短期の語学研修から学部、大学院入学を目的とした英語教育を提供しています。新たに建設されたINTO

Newcastle Universityの建物には1階にカフェテリアがあり、2階から上のフロアに様々な形態の教室を備えています。INTOと連携したことにより、より戦略的に外国人留学生受入を行うことが出来るようになり、学生の満足度も向上しているとアンディー先生は話されていました。

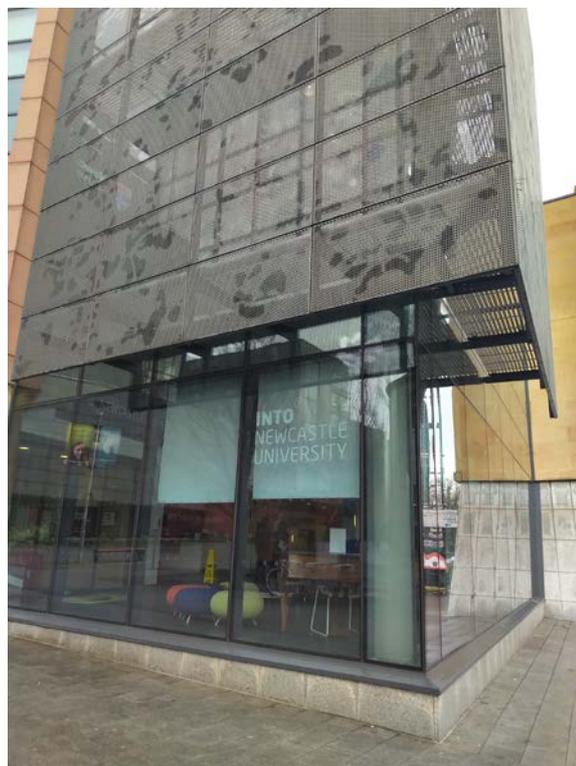


図5 INTO Newcastle Universityの建物  
(2020年2月筆者撮影)

## 6. おわりに

今回の調査を通じ、海外にいる日本語学習者が日本企業に就職する際、情報不足に陥っていることがわかりました。今後、日本国内における外国人材雇用に関する情報を海外にいる日本語学習者や日本語教師に届けられるようにしたいです。

また、今回の訪問後、世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大しました。ワクチンが開発されるまでは安心ができないため、新しい生活様式を取り入れることが求められています。日本語教育現場でも今回の難題に立ち向かうべく、世界中にいる日本語教育関係者が連携することが求められていると思います。

**注**

- (1) 国際交流基金 日本語教育 国・地域別情報は以下のサイトを参照。  
< <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2017/uk.html> > (2020年4月10日閲覧)
- (2) ニューカッスルの人口は以下の Population UK を参照。  
< <https://www.ukpopulation.org/newcastle-population/> > (2020年3月22日閲覧)

**参考文献**

- (1) マリー コンティヘルム (著) 岩瀬孝雄 (翻訳) (1990) 『イギリスと日本—東郷提督から日産までの日英交流』, サイマル出版会
- (2) 白地図専門店 イギリス (詳細図) の白地図 (フリー素材)  
< <https://www.freemap.jp/itemDownload/europe/uk1/2.png> > (2020年4月10日ダウンロード)
- (3) Quacquarelli Symonds, The QS World University Rankings 2020  
< <https://www.topuniversities.com/universities/newcastle-university/undergrad> > (2020年4月10日閲覧)
- (4) Russell Group Our universities  
< <https://russellgroup.ac.uk/about/our-universities/> > (2020年4月10日閲覧)